

サキュバスを召喚したら、

「オムツじゃあ、パイズリからね。」「おい見たこと無いの？」「オムツ交換の間は何もしなくていいのよ。」「サキュバス(お股)にお股をポンポンしてあげるとお股が抵抗するなんて事あるん？」「…あつ！」「オチ○チンがもう脈打ってるよ♥もう我慢できない？」「お股をポンポンしてあげるとオムツを交換してあげるとお股が抵抗するなんて事あるん？」



オムツマンに調教された！

「あ！ああ！」「もちろん新しいオムツの前にお股をポンポンしてあげるねキレイキレイしないと♥♥♥オムツ交換中は暴れちゃダメだよ♥」「は…い」

サキユバスの召喚法

魔法陣を描く。

童貞の精液(2日分)とオムツ。パツクを魔法陣の中心に置いて裸になり
首輪を首に巻いて、
立つたままオナニーをする。

射精したたらそのまま上を向き、
魔法陣の中心に
出したばかりの精液を垂らす。

「ぽぽぽ～んっ！
呼んでくれたのは貴方？
あ、その顔！
好奇心で私を呼んじゃった？
本当に私が出てくるとは
思わなかったんでしょ！？
そういう人多いんだよね～。
でも…



もう絶対に、
逃さない
んだからね！」

「あれ？貴方、包茎じゃん！
こんなんじゃ恥ずかしくて、
女の子に告白出来ないよねえ。
あ～、もしかしてえ・・・。

童貞捨てたくくて
私を呼んだクチ？」



「クスクス。顔真っ赤だよ？
私は、貴方みたいな

童貞の、
包茎男子
大好き♡「だけどね」

「言っておくけど、
ごまかしても無駄だよ？
私、サキュバスだもん。
童貞は匂いで分かるの。
貴方は、間違いなく

童貞♥」



「しかもこの香りは、マゾっ！！！！
優しく叱られると射精しちゃう
タイプの童貞マゾ(笑)」

「……ぐ……ぐぐ……」

「私で筆下ろししたいんでしょう？」

「う……うく……

……は……い」

「クスクス。じゃあ、パイズリからね。
あれ、おっぱい見たこと無いの？
軽く挟んだだけだよ？
ずいぶん簡単に、マゾチ○ポ
大っきくなっちゃったね♡♡♡
んん？」

「…あっ！」

「オチ○チンがもう脈打ってるよ♡
もう我慢できない？」



「あ！ああ！」

「はい。1回目の射精、完了～♡
おっぱいで筆おろし出来て
良かったね♡
ほら、童貞マゾ君♡
仰向けに寝て！
当然私は上！マゾは下だよ♡」

「…は…い」

「あ、童貞だからあんまり見たこと
無いよね？
私のおっぱい……、
もっとじっくり見てもいいんだよ？」

「……はひゅんっ！」

「あ～、でも騎乗位されちゃうと
それどころじゃないか(笑)。
あ、今申出したでしょ♡」



「次からでいいから、
射精する時は、
『射精しちやうらう～』って
申告してね♡」

「あっ！あっ！あっ！」

「情けな～く申告しないと、
オチ○チン搾る回数を…

増やしちやうぞ♡」

「クスクス。今また出したでしょ？
しかもゴム無しの中出し♡
申告しなかったから、
罰として射精1回追加ね♡♡♡」

「くひっ、くひっ！！！！」

「あれあれ～？
急に抵抗してどうしたのかな～？
あ、もしかして…♡」



連続で精液
搾り取られるの
怖くなっちゃった？」

「クスクス、今更抵抗したって

絶対に！
絶対に、
逃さないよ！」



「はい、射精3回め〜・」

「ふひっ！ふひっ！
お願い、許して・・・」

「もう降参？
情けないね〜 (笑)
もちろん、
許さないよ♡」

サキユバスを召喚してしまった包茎マゾヒスト。
(童貞はサキユバスに略奪され済み)

毎日パイズリからの騎乗位で搾精され続け、
1週間が経ち
・
・
・

「どうしたの～？
オチ○チンシコシコ♥されて、
ア○ルホジホジ♥されて、
頭緩う～くなっちゃった？」

「あっ！あっ！あっ！あっ！」

「前立腺気持ち良いね～♥
亀頭を握りこまれると
気持ち良いね～♥」



「シコ♥シコ♥シコ♥シコ♥
ホジホジ♥♥ホジホジ♥♥
もう少し腰を反ってくれる？
自分の精液で顔射されて
みたいでしょう（笑）」

「いや・・・いやあ・・・」

「ん～？嫌？なんで嫌なの？
精液搾り取られて、顔射まで
してもらえるんだよ？」

「どうしても顔射が嫌なら、
オムツ履く？
オムツ履くならセルフ顔射は勘弁
してあげるよ？
ほらほら、早く決断しないと
逝かせちゃうぞ♡♡♡」

「ひぐっ！ひぐっ！ふええっ！
オムツは…オムツなんて…
履けっこ…」



「言っておくけど、
オムツは常時履きっぱなしね♡
白いオシッコと黄色いオシッコを
『お漏らし』した時だけ、
脱がせてあげる♡♡♡」

「いや…いやあ…」

「じゃあ、セルフ顔射しか無いね
しょうが無いよね？ん～？」

「逝くらっ！・・・逝っちゃうら・・・っ！
逝ったら、顔射・・・
自分に顔射しちゃうら・・・っ！！」

「そうだね～♪
逝ったらセルフ顔射だね～♡
ほれほれ♡♡
ア○ルのコリコリをホジホジ♡
ホジホジ♡ホジホジ♡♡」



「さっさと決断した方が良いよ～♡
あ、でも今決断しなくても
OKかも～♡♡♡
『オムツ履きますら♡』って
自分から言うまで、
毎日セルフ顔射もありだよね？
うん！そうしようっ！！！！
ね？ね？ね？」

「ひあっ！そんな・・・そんなひっ！」

サキユバスの手コキ&前立腺いじり
で自らの顔に射精してしまつた包茎マゾ。

来る日も来る日も顔射させられ続けて、
ある日、心が折れてしまっただ。

「オムツ……履きます。
だから……」

「ホント？
嬉しいっ！！！！
じゃあ早速今日からだね♡」

「あららら♥
オムツ履かされてすぐに
オシッコお漏らししちゃったのね。
じゃあ、

オムツ交換

しないとね♥♥♥」



「クスクス。
抵抗しないの？
オチ○チン丸見えよ？
包茎のミニサイズオチ○チンが♥
もうちょっと腰を浮かせて、
お尻の穴もしっかりと見せてね♥
オシッコ付いてないかチェック
しないとイケないし♥♥♥」

「せっかく

オシッコお漏らし

したんだから、認めちゃえば？

『お漏らししちゃうくらい
お股も脳もお子ちゃまなので、
自分でオムツ交換できません。
オムツ交換して下さい』って」



「あ…ぐっ…」

「ここまで恥ずかしい姿を
晒してまだ認められない？
ちゃんとできたらあ…♡
ご褒美あげてもいいのになあ。
白くて、気持ち良いオシッコ…
私に飲んで欲しいでしょう？」

「う…は…はい」

「じゃあ、オムツ交換のおねだり
してみよっか♡♡♡
オムツ交換のおねだりは、『作法』
があるの♡
まずは、
『ち～ち～しちやっただの。
オムチュ交換お願いしまチュ』
って、ちゃんと私の目を見て
心を込めて言うのよ」



「それができたら、
机の上に仰向けになって♡
両足を私の方に向けなさい。
足首を掴んで、
強制的に
お股を広げて
あげるから♡」

「オムツ交換の間は
何もしなくていいのよ。
私(サキュバス)にお股を
開かれたら、男は抵抗なんて
絶対できないし♡♡♡
このまま足首を押して、
腰を浮かせて、
オムツを交換してあげるね♡♡」



「もちろん新しいオムツの前に
お股をポンポンしてあげるね
キレイキレイしないと♡♡♡
あ、オムツ交換中は暴れちゃ
ダメよ。
まあ、お漏らしした上に、
おむつ交換してもらっておいで、
暴れるなんて、恥ずかしくて
出来ないだらうけど♡♡♡♡♡」

「うふふふ。
どうしたの？
急に恥ずかしくなっちゃった？
お漏らし直後のオチ○チンって
小っちゃくなっちゃうもんね♥

ただでさえ小さな
包茎チ○コが



さらに縮こまったら
女の子に、
嘲笑われちゃう
もん。
（わら）
恥ずかしいよね？」

「お尻の穴もヒクヒクしてるし、
オチ○チンはオシッコまみれで
小っちゃくなってるし、
また『お漏らし』しても良いように
オムツ交換までしてもらって…。
男の子なんだから…。
恥ずかしくて泣いても
良いんだよ？」



「泣く所も…。
お漏らしおチン○ンも…。
可愛いア○ルも…。
全部全部見せて♡
隠さずに、ちゃんと
全部全部見せて♡
ね？」

「オムツを交換してもらったら、
お礼を言わないとダメだよ？
『オムチュ交換…、
ありがとうごじやいませゆ』
って赤ちゃん言葉で♡
私の目から視線を逸らさずに
ちゃんと言ってね♡♡♡
あ、それから…」



「新しいオムツを履けたら
お股に魔法のおまじないを
してあげるね♡

その場で、
オシッコが漏れちゃら
おまじない♡」

「オシッコお漏らし♪
オシッコお漏らし♪

「ポポポ♪
♡

サキユバスののかけた『おまじない』により、
包茎マゾは、交換してもらったばかりの
まつさらなオムツの中で、オシッコを漏らし始めた。